

「馬場小室山遺跡フォーラム」第78回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2017 】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かわり」と未来への新たな挑戦

馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します！

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の遠隔生業往還と広域流通社会からの大転換とは？—＞

新展開1	「ムロさま」の 「限界領域」打破	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代晩期以降の葬墓式と土器社会論—「ムロさま」の「累積型改新土坑墓」から探る「追葬型再葬壺棺墓」への途— (ムロ1)寺野東遺跡の「積葬墓」(「SX036埋設土器遺構」)に注目 (ムロ2)青森県の「再葬壺棺墓」／列島晩期の再葬動向／「金田一型土器棺墓」／土井ヶ浜遺跡の「弥生再葬墓」 (ムロ3)福島県鳥内遺跡の晩期終末の再葬壺棺墓と弥生時代前期の合口土器棺による「積葬墓」の土器社会論 (ムロ4)鳥内遺跡の弥生時代前期から中期初頭の再葬壺棺墓と北方砂沢式系文化と中部条痕文系文化による土器社会論的交替劇の様相 (ムロ5)中部から北関東西部における前期の再葬壺棺墓から中期初頭の木棺経墓への移行を「阿武隈文化」と比較し、東関東や南奥と関係の深い前期の再葬壺棺墓として田川流域の栃木県芝工業団地内遺跡の様相を把握する。
新展開2	「オムちゃん」から 「ムロさま」への 「限界知識」打破	土偶から土面／土版／人面文土器の関係、そして容器形土偶への「台式」化とその意義 (オム1)泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク (オム2予告)亀ヶ岡型変相イデオロギーの出現と「オムちゃん」 (オム3予告)「人面文インダストリー論」による「オムちゃん」から再葬壺棺墓の顔壺へ
新展開3	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ1)定住制社会から生業往還としての製塩遺跡へアプローチ (シオ2)アマモやヨシ(アシ)の「草木灰」は濃縮工程での使用か？ (シオ3)製塩遺跡の操業タイプ(短期型と長期型)と燃料問題 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離現象にあり！ 枯れたアマモを特定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採鹹工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5)宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡とは大きく異なり、古鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土壇出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群

1.【第4回「山田湾まるごとスクール」】の総括：5年という節目を迎えた記録集を刊行！

- ・第4回「山田湾まるごとスクール」は5年の節目に当たり、今後の活動方針を考えるためにも被災の原点に立つべく新たに北浜老人クラブの事務局長宅での初心に戻る交流や、大浦仮設住宅の方々とともに記録と記憶による明治三陸地震津波被災後の住宅復興の歴史に学ぶ機会を得ました。
- ・こうした山田町での復興支援活動はさいたま市民への公開も随時行っていますが、特に3年前からは浦和駅前コンナレー9Fにて3・11東日本大震災の被災地支援コーナーに出展し、交流会にも参加してきました。今年からは市直轄の運営体制に変わり、市民活動サポートセンター・フェスティバルと銘打ったイベントが実施されますので、こちらに単独で被災地支援展示・解説ブースを設けます。偶然にも隣接ブースは北浜老人クラブを中心とした支援に注力している「宮北会」ですので、山田町の今後を語り合うまたとない機会となります。
- ・なお、2/24(金)に「宮北会」の総会がコンナレーで開催され、五十嵐聡江さんが第4回「山田湾まるごとスクール」の活動について報告しました。山田町での交流が縁となり、さいたま市の市民活動グループ「宮北会」と出合い、その交流が縁となり、更に山田町における新たな交流に広がるというかわり方に、「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」の精神を再認識した次第です。

2/24の五十嵐さんの報告の様子が「宮北会」ブログに掲載されていたので以下に転載します。

「また当会と同様、三陸沿岸を活動拠点としている「馬場小室山遺跡研究会」の五十嵐聡江さんからは、専門の遺跡を切り口にした山田の歴史における現地団体とのコラボの実績および昨年秋から始めた北浜老人クラブとの交流状況を報告していただきました。五十嵐さんには、昨年に引き続いてご協力いただき、山田で合流できればと思いながら聴いていました。」



2. ポスター発表「聞き取り調査にもとづく明治三陸地震津波被災範囲の復原―岩手県山田町大浦を例に―」

- ・本ポスター発表は2016年11月5日に新潟大学で行われた前近代歴史地震史料研究会にて齋藤瑞穂さんが川端弘行さんと連名で発表した同タイトルの内容をみなさんと一緒に考えることができるようなパブリック・アーケオロジーの成果として紹介頂きました。尚、聞き取り調査の様子等は写真を参照して下さい。
- ・昭和8年(1933年)の実態については本格的な研究が開始された時期とも重なりデータは充実していますが、その前の**明治29年(1896年)6月15日の明治三陸地震津波**については細部の検証に課題があり、この点を今回の聞き取り調査で補い、その成果をポスター発表としましたので是非ともお立ち寄り下さい。



3. 【縄文時代中期の馬場小室山むら】：高級狩猟民社会における栽培管理の位相を求めて！

- ・中期の「オムちゃん」研究からの問いかけからは、同じ「土器型式」のむらにもかかわらず、土偶のある社会(武蔵野台地)とそうでない社会(馬場小室山遺跡など大宮台地)の関係に目を向けます。これはマメ類の有無にも共通した視点となり、高級狩猟民にとり、素朴な栽培は社会的結合から見て生業文化の下位に位置付けられるリスク・マネジメントの可能性が高く、四季を通じた山海の恵み入手に不安定な地域社会の「マメバ」頼み！が由来と想定されます。
- ・地域社会の在り方として最近報告された茨城県常陸大宮市滝ノ上遺跡からは充実した「大木8a式」期土器群が出土し、中期中葉の文化系統の複雑な交流動態が注目されます。果たして「マメバ」の形成や如何？

4. 【その他情報交換など自由な意見交換とワイン・アーケオロジー】

4-1. 『さいたま・水とみどりのアカデミーⅣ 平成27年度講義要約』:会費納入への御礼として配布中。

4-2. お花見ワークショップ(4/2(日)):

・埼玉県立歴史と民俗の博物館(大宮)で企画展、氷川神社遺跡・寿能泥炭層遺跡の見学など。

4-3. その他

以 上